



惜標荘で『週刊現代』の取材を受ける。(撮影：ヤスクニ)

佐伯通信

2012年9月(平成24)
第12号
発行
佐伯泰英事務所
担当/講談社
禁・無断転載

〇に十の字

徳川家康が江戸城の本格的な増改築に取りかかったのは慶長十一年(一六〇六)のこと。完成は寛永十三年(一六三六)であった。そう。築城に必要な素材の石を西国大名は相模湾の真鶴から伊豆稲取にかけての海岸地帯の山から切り出

した。割り当ては十萬石につき、百人持ちの石を千二十五であったとか。伊豆山村には姫路藩主の池田利隆ら、熱海村には津山藩主の森忠政とそれぞれが指名された。これらの石は船で江戸へと運ばれていった。膨大な切り石にはそれぞれ、担当した藩主を示す刻印が刻まれた。福岡藩黒田家は〇に「た」の字、金沢藩前田家は瓢箪型の印だ。これらの石が伊豆から次々に江戸へと運ばれ、隅田川から日本橋川を経由して鎌倉河

佐伯泰英／近刊のお知らせ

2012年11月		2012年10月	
28日 発売予定	15日 発売予定	11日 発売予定	11日 発売予定
『新・古着屋総兵衛』 〇に十の字』(初版、初回出荷限定)		『夜桜』 『双葉文庫』 『居眠り磐音 江戸双紙』 『春霞ノ乱』 『ハルキ文庫』 『鎌倉河岸捕物控』 『春の珍事』	
5		17	
21		40	

佐伯泰英事務所の公式ホームページができました。

<http://www.saeki-bunko.jp> 佐伯泰英 ウェブサイト 検索

この「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が下記出版社の協力のもと年六回発行いたします。
(株)講談社、(株)新潮社、(株)双葉社、(株)光文社、(株)角川春樹事務所、(株)幻冬舎

この際、**「座光寺藤之助」全巻並べて**
「気読みダーツ」

第8巻「変化」から第16巻「断絶」までが、座光寺藤之助の全巻を揃えて、伊那の山河」

第9巻「御殿」から第16巻「断絶」までが、座光寺藤之助の全巻を揃えて、伊那の山河」

伊那衆スポーツ 通巻第2号

特製超太席巻!!

サムライトウノスケには、この島国は暴れるには狭すぎる。そして、ひら文庫サイズも彼には狭すぎたのか?!

佐伯作品でも大スケールを誇るこの新幕末小説シリーズが、新しい顔を付けて登場した。なんと8巻分並べると一枚の絵になる豪快な続き絵だ。シリーズお馴染みの二つの胸のすく新幕末小説交代寄合伊那衆異聞講談社文庫

岸あたりに陸揚げされ、石垣などに積まれていった。

さて、わが熱海の敷地内ではただ今、急崖地を整備している。岩波別荘の惜標荘の番人に就いたために未整備だった崖地に石積みして緩やかな石段を設けているのだ。

ある日、造園屋の社長が、「江戸城に使われた石があるんですが使いませんか」と三つ持ってきた。たしかに鑿跡の「さき矢」が刻まれ、刻印は〇に十の字

だ。最初、薩摩の支藩佐土原藩が切り出した宇佐美産の石かと思ったが、和歌山藩主浅野幸長が関わった切り石との説もあり特定できなかった。

ともあれおよそ四百年前、伊豆から江戸に運ばれた石が三つ熱海に戻ってきたわが崖地に鎮座している。お盆の季節、伊豆石の里帰りとはなにかの縁だろう。

出版社からのお知らせ

佐伯泰英「交代寄合伊那衆異聞」
「散斬」の新作を掲載中!

左ページでも紹介させていただきまして、9月新刊の第十七巻「散斬」刊行にあわせ、全国有力書店で「交代寄合伊那衆異聞」フェアを開催中です。開催店では、既刊十六巻に特製超太席巻を付けて展開しています。特製超太席巻は、ほぼ力バーの大きさなので、一八巻、九十六巻を並べるとそれぞれ一枚の合わせ絵になります。読者プレゼントは特製「レイナ」世号ジグソーパズル。締切は11月30日(金)。応募券1枚で応募できます。くわしくは応募券のついてる既刊十六巻までの特製超太席巻または最新刊「散斬」の新作を掲載中!